

## 出羽三山供養塔

匠瑗探訪

161

「出羽三山」は、山形県鶴岡市にある羽黒山、月山、湯殿山を言い、千葉県は関東地方でもこの三山信仰が最も盛んな地域とされています。

市内では旧八日市場市域で江戸時代の「出羽三山供養塔」が10基確認されています。このうち7基には「月山 湯殿山 羽黒山供養塔」と刻まれ、他の3基は三山に「秩父 西国 坂東」の百観音霊場が加えられています。

供養塔は、東小笹、長谷、大浦、椿、川向の各村で建てられ、側面などに造立年月、関係者名が刻まれています。

今回紹介する供養塔は飯倉・千手院に隣接する道端の石造物群の中にあります。

寛政12(1800)年個人造立のものや、安政6(1859)年8月造立の塔には飯倉村44人の名前があります。この人々は「三山講員」とみられ、何人かが代表して

三山にお参りしたのでしよう。市内からは「道中記」などは見つかっていませんが、県内には40日近い日数を掛けて三山を参拝したという報告もされています。

出羽三山神社は昨年、「三神合祭殿」が再建200年を迎えました。

市内の出羽三山供養塔は1800年代造立のものがほとんどです。出羽三山が中心の羽黒山に合祭されたことも遠方からの参拝を進めたのかもしれない。

市内の供養塔は、200年前からの出羽三山信仰の足跡を伝えていきます。

【訂正とおわび】

本紙9月号掲載の記事で、椿村下が「椿海村」とあるのは、「春海村」の誤りでした。訂正し、おわびします。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問秘書課広報広聴班 ☎73・00

80



千手院(飯倉)近くに建つ出羽三山供養塔